

(様式第1号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和3年度 第1回芦屋市市民参画協働推進会議
日時	令和4年1月28日(金) 午後3時～午後5時
場所	ZOOMによるオンライン会議
出席者	会長 渡辺 直子 副会長 平野 隆之 委員 鎌田 誠史 出口 睦子 山岸 吉広 廣瀬 雅宣 松井 順子
事務局	企画部 部長 田中 徹 市民参画・協働推進室 室長 川口 弥良, 係長 御宿 弘士, 課員 井上 真希
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0人

1. 会議次第

- (1) 開会及び委嘱
- (2) 会長・副会長選出
- (3) 議題
 - 【議題1】パブリックコメントについて
 - 【議題2】令和2年度第3次芦屋市市民参画協働推進計画の事業実施結果について
- (4) その他
- (5) 閉会

2. 提出資料

- (1) 次第
- (2) 委員名簿
- (3) 委嘱状
- (4) 令和3年度パブリックコメントチラシ
- (5) 【資料1】第3次芦屋市市民参画協働推進計画
- (6) 【資料2】令和2年度第3次芦屋市市民参画協働推進計画の事業実施結果

3. 審議内容

(2) 議題

【議題1】パブリックコメントについて

(渡辺会長) 【議題1】はパブリックコメントについてです。市民に対しパブリックコメントが求められている訳ですが、市としての一つの悩みは、活発なパブリックコメントが寄せられないことだと思います。

パブリックコメントについて、私も、どんな意見を出せば良いのか分からないし、どのようなものが的確なパブリックコメントになるのかという

情報もないところが正直な感想，意見です。その辺り皆さんはどのように感じておられるか，感想を頂戴できればと思います。

(山 岸 委 員) 第3次市民参画・協働推進計画の策定に携わり，この2期4年で意見を出したり，内容を確認したにも関わらず，策定されてから何回計画を開いたかなというところもございます。計画策定後の経過において市民の方から意見をいただく場の設定など，意図的に計画を開く・確認する機会が必要ではないかと思います。ただ，市民からみると協働推進計画の目標を見ても，具体的なイメージが湧かないのではないかと思いますので，例えば，市民が行事に参加したときにこの行事はこの目標に該当することをお知らせして感想や意見をいただくなど仕組み，仕掛けをすれば，興味，関心を持っていただけるのではないかと今回改めて思いました。

(鎌 田 委 員) 私も専門ではないのでどこまで言えるのか分かりませんが，パブリックコメントのイメージとして，成功しているところがあるのかというのが，個人的な意見です。日本全国みても，なかなか活発な議論をしているところが私の感覚ですが，見当たらないというのが，正直なところです。

意見を言ってくる方の人数は芦屋市もかなり少ないですね。アカデミックな観点からの研究も2，3件しかなくて，その中で3～6ぐらいの課題が抽出されているようです。その中で，どう参加してもらうかということで市町村で様々な手法を取っているようです。西宮市はあの手この手でパブリックコメントを抽出しようと試みがなされているように思います。新しい考え方としては，インターネットやSNSなどデバイスを使いながら，集約する方法で，それを統計でみると，対面やFAXなどよりもかなり参加率が上がってきているように見受けられます。それでも，一桁の参加の案件もあり，なかなか厳しい。その中で，新しい画期的な参加方法などを見出していくということが，そもそも可能なのかどうかそこも踏まえて議論する必要があると思っております。

(平 野 副 会 長) 芦屋の地域福祉課でもパブリックコメントをやりましたが，意見提出者はそれ程多くはありませんでした。滋賀県の東近江市の計画では3人の方がパブリックコメントを提出され，意見の項目数が多く，専門性が高いものでした。

地域福祉計画の中では，再犯防止や権利擁護，生活困窮に関する内容を盛り込むこととなっており，それぞれの取り上げ方が不十分ではないかというご意見もあり，いずれも専門性の高い観点からのご指摘で，恐らく，何らかの形でその分野に関わっておられる方からだと思います。

市民参画協働推進計画からの観点では，計画そのものがある種の専門的な分野を直接扱っている訳でなく，むしろ，市民が参画することそのものを扱っているため，先程のような再犯防止であるとか，その取り上げ方あ

るいは考え方のように論点が明確な分野ではないこともあり、専門家からのパブリックコメントがなかなか得られない領域にあるということもこの分野には大きな課題だと思います。

計画上、他の具体的な利益の享受者を想定しながら、あるいはそのことを推進してほしい利益団体があつて、そういう立場からご意見が出るような計画ではもともとないので、パブリックコメントといっても、先程から議論になっていますように「このような意見でよろしいですか。」というよりは、「このような計画に参加してみませんか。」と誘うようなことが必要になる分野だと思います。

その点では、地域福祉計画では地域福祉への参加、市民の参加を求めている訳ですが、審議会では概要版の作り方でかなり議論になりました。今までのような計画を縮小した概要版ではなく、参画協働で求められているように市民にどのように参加してもらうか、それを考えるため、概要版という名前は使わず参加を促進するような冊子とすることになりました。あしやNPOセンターにお願いして、中学生や高校生、大学生による小さなプロジェクトを立ち上げ、地域福祉計画の取扱説明書として、どのように地域福祉計画を取り扱うかを検討していただいています。パブリックコメントに変わり得るものではないですが、市民参画協働を推進する立場からすると、パブリックコメントのあり方と共通しているのではないかと思います。パブリックコメントにおいて、計画の内容をどう修正していくかだけの観点ではないコメントを求めていくということが必要ではないかと思いました。

(廣 瀬 委 員) パブリックコメント募集の中で、第4次地域福祉計画の他、市立芦屋病院の計画などもあるので、パブリックコメントを出しやすいと思います。ただし、地域福祉計画という単位では大まかなので、計画の中で具体的にこういう提案でいこうと決めて、その提案に対してパブリックコメントを頂戴した方が良いのではないかと思います。漠然と地域福祉計画に対してではパブリックコメントとして何を出して良いのか分からないと思いますので、例えば、ボランティアで何かをすとか、具体的な議題を一つ決めて、皆さんから意見をいただかないと前に進めないのではないかと思います。

(渡 辺 会 長) 市民からのパブコメが欲しいという話になったときに、反応できる方がどのくらいいるのかという問題が一番大事だと思っています。意見も言いたいこともない訳でもないがパブコメとして聞かれると何を答えたら良いのかとなってくるので、理解して言いたいことを言えるようなプロセスを作らなければならないと、チラシのデザインを変えたりするだけでは、あまり解決しないと思いますので、廣瀬委員が仰られていることが良く分かります。

(松 井 委 員) パブリックコメントという訳ではないですが、市民の中の意識の温度差と申しますか、地域で活動して、皆で手を取り合って、何かをしたいと思っている方がおられると思います。反対に、芦屋市の特徴と申しますか、参加してもどれだけ反映されるかが分からないので、自己責任で生きていきま
す、暮らしていきますという方が一定数おり、ここの温度差があります。地域のことを思っておられる方は地域でたくさんおられますがそこを繋ぐ人、あるいは、自分のことは自分でしている人達の中でさまざまな潜在能力を持っている方の気持ちを引っ張り出せるような何か仕掛けがあると良いな
と思っています。それがパブリックコメントなのかは分かりませんが、そのところが芦屋市の場合は課題だと感じています。

(出 口 委 員) リードあしやから見たパブリックコメントとして意見を述べさせていただきたいと思
います。

リードあしやには、パブリックコメントのためさまざまな計画書関係資料を置かせてくだ
さい、と行政の方からご依頼をいただいております。職員に確認したところ、資料が置か
れているボックスの引き出しを開けて真剣に読まれている市民の方は実際にいません。
どちらかと言えば「パブリックコメントって何。」という方が多いのではないかと
いうのが、私たちの思いです。

実際、市民活動団体がリードあしやを利用することがとても多いのですが、活動
の中で市民参画や協働をしているということに気付いていない方もいらっしゃるよ
うにも思いますし、悩みや意見を持っていても、パブリックコメントすることに
繋がらないということもあるのではないかと思います。今回も、パブリック
コメントのチラシをリードあしやの登録団体に送らせていただきましたが、2名
の方から「これは何ですか。」という問い合わせがありました。パブリック
コメント自体、認識されていないのか、自分たちが活動していることと
繋がっていないのではないかと感じているところでは、その繋ぎ方の
仕組みや仕掛けが必要ではないかと思っています。

(渡 辺 会 長) 出口委員は、現場から大変分かりやすい形で意見を言
っていただき、私が伝えたいことも、ほぼ同じです。

パブリックコメントとは何か、という話がほとんど市民の間で理解され
ていないということが、一番大きな問題だと思っています。周知するよ
うなプロジェクトを考えられた方が良いのではないかと、常々思
っている次第です。私共は、一市民の感覚のほうが強いので、市民の方
にとって「パブリックコメントって何？」という印象が強であろうとい
うふうに思います。

以上のような委員の意見、感想について事務局から思われること、回答
などはありますか。いかがでしょうか。

(事務局：御宿) 皆さんからの貴重なご意見、ありがとうございます。市もパブリックコメントは市政に参画する大きな柱の一つとして取り扱っており、長く続けているにも関わらず、ご紹介いただいたような市民の方の反応などを聞くと、やはりまだまだ周知不足の状況を感じております。このたびのパブリックコメントの中でも市民生活に直結するような計画や取組は、市民の方にとって身近であることから、電話での問い合わせなどをいただいております。関心が高い状況を肌で感じています。しかしながら、市民生活への影響について実感として沸きにくいものは、市がチラシデザインや周知方法を工夫したり、何らかの新しい試みをしてみても、なかなか伝わりにくい状況です。計画そのものが理解しにくい場合、パブコメに対するハードルが高くなり、ご意見をいただきにくいところがあると感じています。これは、市民生活に直結するものではない計画、あるいは社会の変化を受けた大きな視点で行政が今後取り組んでいくべきことなど、市民に参画してもらう必要があるものの、関心を引き起こせていない状況です。これは、行政側の発信の仕方、参画の取り組みの進め方についてご指摘を常々いただいておりますが、工夫が足りない部分があるのかなと実感しているところです。

いただいたパブリックコメントに対する取り扱いの回答の文言等について、こうしたほうが良いというアドバイスがありましたら、この場でいただけないでしょうか。

(渡辺会長) 芦屋市は意見を反映します、尼崎も反映とっていますが、西宮、三田、浜松は修正しますとはっきりいっています。この「A意見を反映する」は曖昧な感じが気になるのではないのでしょうか。それ以外の回答の文言は各市ともに似たような表現だと思いますが、Aランクの取り組み姿勢が、曖昧な感じは言葉尻からもしますが、皆さんいかがでしょうか。

(廣瀬委員) 芦屋市は以前から、意見を言っても変わらないです。

(渡辺会長) 感想としては、市民からすると何もしてくれないという印象が強いというところでしょうか…。

パブリックコメントをどう誘発していくか、それが課題です。繰り返しになりますが、パブリックコメントを周知するプレゼンテーションのテクニックを考えた方が良いというか、磨いた方が良いというのが第一にあると思います。広告代理店的に考えて、どうしたらこのパブコメという商品が、皆に届くかということを考えたときに、今のようなやり方はしないのではないかと。そこは、頭を切り替えたほうが良いかもしれないですね。もっとやさしい言葉で噛み砕いて、意見がどのように欲しいのかを説明でき

るツールを作り、それを皆に行き渡るようにするなど、そのようなところが大事なのではないかと考えております。

(鎌 田 委 員) 全く同感です。先行研究見ていきますと、まさに今の話が最初に来ており、有効な情報の提供として、例えば、情報源の多元化が必要ではないか、以前はチラシを配り、意見を電話やFAXで伝えるという形になっていましたが、先程も申し上げましたとおり、他市ではLINEやインターネットも使って、意見の集約をあらゆる手段で多元化しているというのは、参考になると考えてみていました。他市と芦屋市のパブコメのサイトを比較してみますと、他市ではこういった属性でどんな方がどんな手法によって意見を出されているのかも分かりますし、例えば、ある案件についてこういった意見があったかというのが、一目で分かるように整理されています。芦屋市のホームページ画面では計画や意見の内容が見えてこないです。提出された意見に対して、どう答えたかというところが分かるだけなので、次に繋がっていかないだろうと感ずけると、回答の内容もクレームと説得、その一方向で終わりというまとめ方なので、これでは次も意見を言おうということにはなりにくいという印象を受けました。例えば、広告代理店的に「パブコメって何」ということを学生などがうまく入って、もっと柔らかい視点で聞いていくなども手伝えるのではないかと聞きながら思いました。

(渡 辺 会 長) 今、鎌田委員のおっしゃったことにもヒントがありまして、ワークショップのようなことはとても有効だと思います。一方的に「意見を言ってください」という教室スタイルのワークショップではなく、それぞれの意見が出しやすいような設問に置き換えて、学習材料のようにカモフラージュされても良いと思います。住民ワークショップでの意見がそのままパブコメになるというのが良いのではないかと思います。今だと分からないことをわざわざ電話して聞いてくる人はいないと思いますが、そのような場(ワークショップ)があれば、「分からないことは何ですか」という設問を設け、それに対する参加者の答えを付箋に書き整理するだけでも、何が分かってもらえないということがはっきりしてきます。

次の2回目のワークショップで、分からないことやできていないことに対して、「どのようなアイデアがありますか」というワークショップを試してみたら良いのではと思います。

(松 井 委 員) 市民の立場で言いますと、具体的な問題を地域の方はおっしゃられます。ですが集約に関して例えば、自治会に届けることが良いのかとか、私も含め手法が分かっていないところがあります。

ワークショップのような形で声をかけて、参加しやすい、みんなが集まれる場の設定があれば有効だと思います。ですが、そのようなところに自身が参加することが実際にふさわしいのかどうか。例えば、地域で暮らし

ている主婦が、「私なんか行って、意見言って、相手にされるんだろうか。」というようなハードルがあると思います。そのため、自身の周りの人に声かけはするけれど、それをどのように吸い上げていけば良いか。例えば、民生委員の方が高齢化しており、次の世代も育てていないという問題もあるので、このようなことを地域でしてくれたらと思います。他にも、防災計画はできているが、地区防災計画になると、芦屋市は少し遅れていると耳にします。とても意識の高い方が地域におられますが、そこは繋がっていないので、地域で繋がるようなワークショップをするのはとても良いことだと思います。一方で、コロナ禍で人と接近することが非常にリスクが高いため、「待ち」の時期と思いますが、この「待ち」の体制の時に、どのような仕掛けができるかを考え、「待ち」だけでもZOOMもできる、ミーティングもできる、そうしなければ社会に取り残されていくというのが、見えてきている。反対にチャンスであって、例えば、地域の人たちにスマホ教室を行い、高齢の方にも、「スマホからZOOMに入れますよ。」ということを知ってもらい、そういうところからもっとアクセスするというところから始めて、ワークショップに繋げていくことが、有効ではないかと思っています。

(平野副会長) 先程、ワークショップの話がありましたが、ワークショップをすることになると、計画がほぼ完成した段階では実施しても役に立たない感じがします。

そうすると、市民参画協働推進計画において、何か新しいパブリックコメントの方法を試行するという前提が、例えば、我々の中で共有すれば、ワークショップ型に進展することができるのではないかと思います。ほかの計画では基本的には難しい。何故かという、策定委員会とワークショップがどのような関係になるのか、あるいは、テーマ自体がある利益をめぐって、相反することが起こったときに、どのように考えていくのかという問題があります。しかしながら市民参画協働推進というテーマにおいては、パブリックコメントを中間段階で試みるということは計画上、妥当性が高いのではないかという議論のもと、「策定委員会とパブリックコメント型ワークショップとは2つの両輪なんだ。」というような話が組立てられれば、最後の段階のパブリックコメントではなく、計画の途中の段階でパブリックコメントをすることは可能ではないかと思います。ただ、他の計画などでは、パブリックコメントと別にワークショップをすることはかまわないと思いますが、それをもってパブリックコメントに替えることはハードルが高すぎて、そのことで得る利益よりも、そこを乗り越えていく負担の方が大きいように思います。

市民参画協働推進計画では計画を立てるプロセスの中で協働推進を図るということを策定委員会が合意すれば、参画協働型のパブリックコメントとしてワークショップ方式を採用することに直結すると思います。市民参

画協働推進計画で新しい芽をだそうとするのなら、他の計画では無理だと思うので、次期計画になるかもしれませんし、あるいは、廣瀬委員がおっしゃられていたように「あるテーマに限定すると意見は出やすいんだよ。」ということで、この推進計画の中から何項目か取り上げて、パブリックコメントとは言えないかもしれませんが、試行的にパブリックコメント型ワークショップをしてみて、1つの実験みたいなプロジェクトをしてみるということは良いことだと思います。

(渡 辺 会 長) 社会実験というのはとても大事なことだと思っています。芦屋市民は、1人1人の意識は高いが関わっていくこと自体に、松井委員がおっしゃっていた「もう、自分で完結してるからいいよ。」という考え方の人が多く、それは良くないことです。地域の中で生きてる、生活しているのだからそういう姿勢は良くないという上から目線ではなくて、市民がもう少しそのようなやり方に慣れていく、フレンドリーになっていくということは市民生活を送る上でとても大事だし、自分自身の生活や心も豊かにするものだと、私は思います。それを促すことができるのはこちらのメンバーと市民参画の部署だと思います。分科会作ってもかまいませんし、もう少し積極的に取り組んでほしい。自分でも取り組みたいと思っているポイントではあります。委員の方もそのような気持ちでこの会議に参集しているのではないかと考えております。その辺りのところを考慮していただきまして、何らかの呼びかけをしていただければ、できる限り応じたいと思います。

【議題2】令和2年度 第3次芦屋市市民参画協働推進計画の事業実施計画について

(渡 辺 会 長) 【議題2】は、令和2年度第3次芦屋市市民参画協働推進計画の事業実施結果についての報告を事務局から説明をお願いします。

－ 事務局からの説明 －

(渡 辺 会 長) 行政とは違う立場で、それぞれまちづくり関わっておられると思いますので、その中でアドバイスや意見がありましたら頂戴したいと思います。

(山 岸 委 員) 令和2年、令和3年と社会福祉協議会も地域住民の方と活動をどう継続していくかという取り組みをしてきました。また、地域福祉計画や社会福祉協議会の推進計画の策定の中で、平野副会長からご説明があった「トリセツ」を作ることとなり、学生の方が参加するワーキングチームで話す中で、高校生や大学生が参加している活動が「これが地域福祉なんですよ。」という気付きがあったという報告がありました。市民参画という部分で市

民の方が知らないうちに参画しているところをどう掘り起こしていくか、どう分析していくかということが必要だと思って聞いておりました。

社会福祉協議会も12月末に、岩園町自治会と協働で大学生の協力も得て、焼き芋と公園清掃を組み合わせてイベントを開催しました。そういった活動は市民の方が楽しみながら参画できる結果、福祉に繋がったり、まちづくりに繋がるというような取り組みが進んでいけば良いと考え、考え方を革新して、固定概念を取り払っていろいろな角度から物事を捉えるようになると、もっと市民参画・協働が進むのではないかと思います。社会福祉協議会もこれから地道にやっていきたいと思いました。

(出 口 委 員) 山岸委員がおっしゃるように、市民の方の活動が市民参画・協働に実はなっていることに気付いていないことが多いと思います。

リードあしやは、市民活動の拠点になっていて、気付いている方もおられますが、部屋を借りている方の中には、リードあしやの登録団体でなくとも、職員が声掛けさせていただいたことで自分たちの活動が市民活動をしている団体だったということに、気付かれる団体もおられます。地域課題の解決に向けた活動をしている団体を発掘する過程で、皆さんの気付きに繋げ、たくさんの人材を集めていけば、芦屋市は良くなるのではないかと感じました。

(平 野 副 会 長) この会議が今後何をしていくのか、今回のような議論や第3次の計画を進めていくときの話を、仮に出発点と捉えたとき、すぐに次の計画を立てるわけではないので、我々は進行管理的な役割を果たすことだと思います。その出発点において、事務局で整理されたいくつかの課題を具体的に、問題提起されている中身を深めるような議論を何度かに渡ってしていく、つまり、進行管理する意味は、推進計画の進行管理という他の部署がどのようにやっていってるか。市民参画のもとに、あるいは市民と協働するもとに、市の政策が推進されていくということ、掘り下げて考えていくことはとても大事だと思います。その場合に、参画・協働の形態の問題が、もう少し深められた方が良いように思いました。例えば、「場づくり」と施策分類されている中の取組において、参画・協働の形態の殆どを「会館の提供」に分類されています。しかし、その中身がこのままだと深まりきれないわけです。この「場づくり」をある意味で形態の中で言えば「共催・実行委員会・協議会」みたいな芽が芽吹いているといいますか、そのようなことのある会館の提供があるなど、その会館や担当部署が施設を通してマネジメントしていることは当然あることです。「場づくり」と「人づくり」に関しては、取組の中身を見たほうが良いのではないかと思います。進行管理として、他課の取組について、情報収集されてきたものは貴重だと思いますが、深まった収集の仕方なのかと言いますと、これをどのよう

に深めたら良いのか、あるいはそれをどのように市民参画・協働推進室をとおして還元していけば良いのかということは何度かに渡って議論して、参画・協働の質が高まらない限り、次の会議に発展しないと思います。場づくりというメカニズム、あるいは人づくりというのも場づくりとセットになっている部分がありますので、「場づくり」「人づくり」の中で、集約されているいくつかの取組について、細かく検討してみて、芦屋市の中の課題や、指定管理として受けているところの課題など、ベースになるような議論をどのような形で協議できるか、そのための更なる情報収集も含めてやる意味もあるのではないかと思います。地域福祉課は、そのようなことに慣れていているところがあるので、高いレベルでなくともできているということもあります。差し当たり、事業数の多少の判断は大丈夫だと思いますが、もう少し、質的に深めて、芦屋市全体、あるいは行政に「場づくり」「人づくり」という方法を提案し、自由な感じで深めていき会議のテーマを設定してやってみる価値は十分にあるのではないかと思います。

(渡 辺 会 長) ありがとうございます。

私も平野副会長を同じ意見で、昨秋に岩園町自治会と社会福祉協議会が協力して、岩が平公園の清掃に参加してくれた人に焼き芋をプレゼントするというイベントを開催したのですが、当初は、人が集まるのかと思い心配していたのですが、結果的には200名程も集まり、焼き芋が足りず、芋を買いに走ったというようなことがありました。その様子を見て、活動に地域住民が巻き込まれるメカニズムが、とても面白いと思いました。私はそういうメカニズムの研究をしたい気持ちがありましたので、なおかつ、この委員会が進化した形になれば良いという思いもあり、LAB的な役割りを果たせたらと思います。そのような意味で、今回の委員に、あしや市民活動センター（リードあしや）の職員として市民活動に日々リアルに触れている出口委員や学生を巻き込んでアカデミックの立場から活動しているっしやる鎌田委員が入ってくださったことが、とても心強く、そうした新メンバーの本領も存分に発揮していただいて、この委員会がイノベーションすれば良いし、ぜひそうしたいと本日の会議を通して感じたところです。

その会議の会長を2年務めさせていただくことを、光栄に思っておりますので、皆さんに支えていただきどうぞよろしくお願いいたします。では、そろそろ時間となりますので本日の議題は以上としたいと思います。

以上